

年末が近くなると宝くじの話題が多くなりますが、江戸時代も同じように、宝くじは庶民の夢でした。一般には富くじという言葉がよく用いられますが、津山藩では「万人講」と呼ばれ、江戸時代を通じて数多く催されました。

万人講の開催が決まると「ひびる」という紙札が講元から発売されます。ひびるは通常銀5匁で発売され、その数はまちまちで数千枚から数万枚に及びます。購入枚数は自由で、ひびる10枚分に相当する大札もありました。

ひびる購入者は、万人講の木駒を作ってくじに参加します。まず、対になった木駒を用意して、その両方に同じ文句を書き入れます。そして、ひびる1枚につき1個の木駒を講場の桶に入れる権利を得るのです。

万人講が始まると、桶の中から木駒が錐によって突き上げられ、当たりとなった木駒の文句が読み上げられます。その突き上げられた順番によって当選金額が決まり、当選者はもう1つの木駒を証拠として賞金を受け取ります。

当日参加できなかった人のためには、当たり札文句帳が作成され、後日確認して賞金を受け取ることもできました。しかし、中には当たりを知らないまま忘れたり、当選者が名乗り出ないこともありました。

明和7年（1770）の12月、備前の藤五郎という者が、前回の万人講に参加した時の控えの木駒を削り直し、再び万人講に参加しようとした。ところが、津山にやって来て、前回の木駒の文句が当たり札になっていることに気がきました。

津山城百聞録

～万人講の木駒～

そこで、講元に申し出たところ、対になった片方の木駒が削られていたために証拠が無く、渡せないと言われました。あきらめ切れない藤五郎は、再度同じ文句を書いて差し出し、その筆跡から本人の確認をしてもらい、めでたく賞金を手にすることができたのでした。

木駒の大きさについては制限がなかったのですが、突き上げられやすいようにするためか、大きな木駒を作る者が増え、その結果、突き上げをする係の者が取り落とすなどの問題が起きました。後年、藩では大きな木駒を入れないように規制しています。また、縁起を担いで「どこその場所の水で墨をすって書くと当たる」などというような話も伝えられていました。



▲万人講のひびると木駒

つやま 広報 12月号

12月号

平成19年 2007 638号

編集・発行（毎月10日発行）

津山市企画部市長公室（市役所3階）
〒708-8501 岡山県津山市山北520番地
☎0868-23-2111(代) ☎0868-32-2152
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます。
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>



12月に入ると街の雰囲気が一気にクリスマスになりますね！市内各所のイルミネーションもなかなか綺麗で、やっぱりこの時期はいくつになってもウキウキするものです。大切な人へのプレゼント、今年は何にしますか？(和)



今年もご愛読ありがとうございました。年を重ねる毎に時のたつのが速いです。特に今年は広報紙の締め切りに追われ、加速したよう。でも密度の濃い生活を送りました。緊張と緩和のバランスを大切に来年も頑張りたいです。(2)



つぶ・や・き

編集室

広報担当になって始めた写真ですが、なかなか良い写真が撮れません。ほけたり、シャッターを押せずに慌てたり。多くの人に助けられながら、今は写真をたくさん撮って、少しずつ色んなことを学ぼうと思っています。(3)



10月中のひとの動き

人口	110,503人(前月比△51)
男	52,742人(同△8)
女	57,761人(同△43)
世帯	43,672世帯(同+3)
転入	250人
転出	278人
出生	93人
死亡	116人

(11月1日現在)



広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください